

## 日本をまともな国にするために

横田・基地被害をなくす会 福本道夫さんに聞く



**ふくもと みちおさんプロフィール** 1949年生まれ。3歳から横田基地南側の昭島市に住み始める。1982年第3次横田基地公害訴訟に原告として加わり、事務局を担う。その後、横田基地飛行差し止め訴訟に参加後、2014年に第9次横田基地公害訴訟原告団の団長に就任。写真は、横田基地第2ゲート前で

—福本さんが基地公害訴訟にかかわるきっかけからお話してください。

横田基地の南側にある昭島市に自宅がありました。基地から1,000m位のところで、ほぼ飛行直下でした。1976年に横田基地公害訴訟が始まったのですが、この中心人物が私の父親で、公害訴訟の団長をやっていました。

私が裁判に直接かかわることになったのは、1982年の第3次訴訟からで、すでに結婚もして自宅を出ていましたが、訴訟団（注：第1次～3次訴訟が同じ訴訟団）の原告となり、事務局に入ったのが裁判とのかかわりです。幼いころに、ものすごい爆音のなかで生活していたという記憶もあつてのことです。その後、1994年から横田基地飛行差し止め訴訟を最高裁までやり、2012年に第9次横田基地公害訴訟を提訴し、今年の1月27日最高裁で判決があり、現在に至っています。

—横田基地での騒音被害の実態はどのようなものでしょうか。

飛行機の騒音を評価する指標で「うるささ指数」というものがあります。よくデシベルとうるささ指数を混同する方もいますが、デシベルは一過性のもので、騒音計で測ることができる。これに対して、飛行機が夜10時から翌朝6時までの間で飛んだ場合を10倍に評価するなどして、騒音が生活に与える影響を考えて、数式に当てはめて出すのがうるささ指数です。

ただ基地周辺の人がどんな騒音に悩まされているかをみなさんに実感を持ってもらうために一過性の音量で説明すると、例えば電車が通るときのガード下が100デシベルの音です。戦闘機の音は120デシベルにも達します。私の自宅の上空をC130輸送機がよく飛びますが、80デシベルくらいあり、この音は電話をしていて会話ができないくらいのレベルですね。

そして、今問題なのが2018年に横田基地に配備さ

れた米空軍のオスプレイ。夜間の訓練が非常に多く、なかでも評判の悪い訓練が、ホバリング訓練です。空中で止まっている状態を30分とかひどいときは1時間以上も続けています。この時発生するのが、低周波をとともう音。戦闘機の音もひどいけど、低周波音の気分の悪さは異様です。

ついでに言いますが、環境省は環境基準として住宅地としてふさわしいのはうるささ指数70以下と定めています。ところが、うるささ指数を基準に防音工事の助成とか補助金などが関わってくるので、防衛省はお金を出したくないせいか、50年も前から全国の基地周辺にうるささ指数75以上の境界を制定した後に、70という境界は設けていません。被害の基準を一切広げようとしない、変える気も無い。これが国の方針なんですね。

オスプレイの低周波音被害についても、環境省はいまだに低周波音に対する基準を設けていません。WHOは騒音に対して、どのような健康被害を及ぼすかということをもっと広い基準をとっています。かなりひどい騒音被害がないと健康被害と認めないのが現在の日本の状況です。

—横田基地で米空軍はどのような活動をしているのですか。

横田基地の歴史からひも解きますと、1940年に陸軍立川飛行場の付属施設として開設されたのが始まりです。太平洋戦争後に米軍に接収されて横田基地と名付けられ、その後朝鮮戦争、ベトナム戦争があり、そのころは戦闘機と爆撃機の出撃基地でした。ベトナム戦争時の年間飛行回数は、3万回、4万回は当たり前でした。このころは、私が小学生から高校生にかけての時代で、とにかく戦闘機の音がひどかった。一番記憶に残っているのは、飛行機からエンジンを取り外して、基地内でエンジンテストをやり続けていたこと。ものすごい音をずっと出しっぱなしにすることで、とんでもない騒音被害がありました。友達と話をするときでも、耳元に口を近づけて大声でしゃべらないと聞こえない。それが1日の内で半日以上、夜中まで続くこともありました。

それが1970年代になると、「関東計画」といって関東にある米軍基地を横田基地に統合するという日

米合意が1973年に取り交わされ、1975年のベトナム戦争終結頃から、横田基地は輸送機であるC130が中心の部隊の基地となって、さらに第5空軍司令部、在日米軍の司令部が設置されました。

横田基地が米軍の輸送中継基地となってから、飛行回数は他の基地に比べるとさほど多くはなく、2012年度には年間8,000回くらいまで少なくなりました。それが2012年を境にガラッと変わってきました。2012年度末に自衛隊の航空総隊司令部が府中から移駐してきたため、横田基地は日米共同使用という形になったのです。また、2018年にはオスプレイの部隊が配備され、2020年度の年間飛行回数は約15,000回になりました。

2012年1月に、アメリカのアラスカ基地の部隊がパラシュート降下訓練を始めたんです。大規模な訓練として初めてだった。これ以降、部隊は違っていても大規模なパラシュート訓練が続けられています。

横田基地というのは南北に長いのですが、東西で一番狭いところは幅500m位しかありません。そんな狭い場所に向けて、上空300m位から降下したり、上空4,000m近くから降りてきたりしています。

ここで言うっておかねばならないのが、横田空域の問題です。横田空域は最北端が新潟県の下田という場所、南は伊豆の下田の近くまで。西側が八ヶ岳、東側が東京の新宿あたり、高さが一番高いところで7,000mという広大な空域です。ここは米軍が管制している空域で、米軍の指示に従わないと入れない。横田空域はいわば米軍の植民地です。そこで民間機が羽田から西に行くときは、横田空域を避けて、横田基地のはるか上の方を通らなければならない、九州方面から羽田に来るときは横田空域の南側の海上を飛行します。時間と燃料のロスになっている。

これまでに一部空域の返還はされ、羽田から階段状に削られている状況になっており、現在は、横田基地の上空の横田空域は高度3,500m位ですよ。つまり高高度のパラシュート降下訓練はその空域の上でやっていて、羽田から西の方に向かう飛行機が飛んでいる。考えたらすごい怖いことです。また、パラシュート降下訓練で、メインパラシュートが開かない場合は切り離し、補助パラシュートで降りてきますが、切り離れたメインパラシュートや関連部品が基地の外に落ちるといった事故が、このところ毎年のように起きています。基地周辺は住宅地が隣接しているし、非常に交通量の多い国道16号線も走っていて2次被害による大事故につながりかねません。

**一日米軍事一体化が進んで横田基地の運用も変化が見られますね。**

通常は、飛来機の離着陸以外に常駐機の輸送機C130が、旋回訓練や編隊飛行訓練を基地周辺で行っていることが多いです。滑走路にいったん接地して再び飛び上がっていくタッチアンドゴーをやることも多

いです。旋回訓練も急激に曲がるため飛行機の背中が地上からもよく見えるんですよ。そのまま落ちるのではないかと思われるほどのカーブをする。私は11階建て団地の6階に住んでいますが、その真上を、地上から100m位のところ、まるで手が届くような感覚のところで飛行訓練をしているんです。

そして最近増えているのが、他の基地から来た飛行機が横田基地で訓練すること。例えば、外来機の対潜哨戒機P-8がやってきて、土日にもかかわらず、タッチアンドゴーやローパス（基地上空を低空で通過すること）をやることもあります。あきらかに横田の訓練基地化が進んでいるといえますね。また、戦闘機の大量飛来も目立つようになりました。

そのほか横田基地から近郊の厚木基地、相模原補給廠などに行って離着陸などの訓練を行っています。横田基地所属のUH-1Nヘリコプターが、ヘリポートでもない横浜ノースドッグで、ホイスト訓練（ホバリング状態で兵士や物を吊り上げたり吊り下げたりする訓練）なども行っている。逆に座間基地のUH-60ヘリが横田でパラシュート降下訓練をするなど、基地間を移動しての訓練が当たり前のように行われています。

今年の3月9日のことですが、自衛隊の習志野空挺団が横田基地からC130に乗り込み、東富士演習場で大規模なパラシュート降下訓練を行っています。

また、「沖縄の基地負担の軽減」を政府は言っていますが、沖縄の嘉手納や普天間基地に、他の基地の所属機が行って訓練を実施している。横田からもCV-22オスプレイが嘉手納に行き訓練を実施しています。全国に被害が広がる一方、沖縄の基地被害も全く変わらない状況ですよ。

**一米軍の動きが非常に活発になってきましたが、今後どのようなとりくみを進めていけますか。**

オスプレイの飛行について横田基地の周辺自治体は実態調査をしてくれません。そこで、どこを、どのように飛んだか、地域住民の協力を仰いで、自力で航跡調査をやり始めたところです。それと毎月1日に基地前でスタンディングをして抗議行動を続けています。その他にも、地域の諸団体と協力して署名活動や駅頭宣伝も継続しています。コロナの関係で活動が難しい面もありますが、2か月に1回はやるようにしています。

安保条約に基づいて日米地位協定があり、地位協定に定められた日米合同委員会で様々な合意事項も決められていますが、その決まり事すら守られていない状況があります。せめて決めたことくらいは守ってほしい。米軍が日米合意を守らないのに、日本政府は何も言わない。米軍にとっては、日本の空で何をやってもいいという状況であるのは非常に嘆かわしい。

突き詰めて言えば、私たちのとりくみは、日本をまともな国にしようとする運動なんだと思います。